



TITLE:

通信及報告

AUTHOR(S):

---

CITATION:

通信及報告. 天界 1927, 7(72): 122-122

ISSUE DATE:

1927-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161081>

RIGHT:

である。總會の席上、舊會長 Davies 師は慣例によつて一場の引退記念講演をした。題は「反射望遠鏡の歴史」で、グレゴリの昔から、コンモンまでの事を述べられた。

此の總會には、偶然、米國アンナホア大學の天文臺長ハセイ(W. J. Hussey)氏と、同大學助教ロシター(R. A. Rossiter)氏とが出席し、會長の講演後、兩氏が交々小演説をした。兩氏はちようご其の時南アフリカへ「二十七時」の大望遠鏡を持

つて行つて新しい天文臺を建設する爲の途中、英國に立ち寄つたのであつた。——しかるに、不幸にして、ハセイ臺長は此の總會の日の夜、ホテルで心臓麻痺を起し、急死した!! ハセイ氏は米國天文學界の元老であるから、此の死の報知は各國の人々を驚ろかしたものである。しかし、其の後、ロシターは單獨で、豫定の如く、南アフリカに向つて出發した。

## 通 信 及 報 告

### 上田支部報告

上田「星の研究會」は本年度の納會を十二月十八日午後七時より上田圖書館内にした。折柄大風雪の夜なるにも拘らず集會まる同好の士は五十名、中には數里の遠くから定刻までに來會した熱心な會員もあつた。支部幹事宮島善一郎氏は宇宙開闢論の題下に最近の學說を紹介し、上田蠶糸專門學校教授原田親雄氏は天文學と物理學との關係について詳論せられて午後九時講演を了つた。

圖書館長岡崎袈裟雄氏は會員を代表し講師宮島氏に對し慰勞の辭を述べられた。それより會員はストーブを圍み種々なる質問や雑談に時を移したが、自然に惠まれた上田市に是非天文臺を建設したことの議が起り、これが實現に努力する事を申合せて午後十一時盛會裡に閉會した。(上田支部通信)

### 岡山支部通信

十月九日 宮原幹事宅で天界研究會。  
十月十四日 關西中學校で黒點觀測會。  
水野幹事の上洛。十月十六日上洛。十七日は午前中と午後の學術協會の講演を聽聞。それから天文同好會總會に出席十八日再び大學に。同夜歸岡された。  
十一月十一日 下村内務部長宅で天體觀測。

十一月十三日 宮原幹事宅で天界研究會  
十一月二十日 六高科學會主催で天文講話會が催され、來縣中の山本博士は「經緯度測定法」について講話された。

十二月十一日 宮原幹事宅で天界研究會  
十二月十八日 倉敷小學校で天文講話が催され、水野幹事は「星の光度」と「恒星」さについて述べ、併せて「倉敷天文臺」について實地説明をせられた。

## 倉 敷 通 信

### 岡山支部報告

1. 毎月第一と第三との土曜日を公開日と定め、當日は通俗講演と天體觀測とを行ふことにした。
2. 第一回公開日、大正十五年十二月四日午後七時から、臺員理學士宮原節氏「反射望遠鏡」の話について講演した。來聽者兒島商船學校教員、生徒十二名、關西中學校生徒二十餘名、川上郡高倉村女學生三十餘名其他數十名あつて、講演後觀測會が催された。
3. 第二回公開日、十二月十八日午後一時から御津郡及び都窪郡教員團六十餘名の爲めに水野主事は天文臺について詳細なる説明を試み太陽の觀測をした午後六時から岡山醫科大學醫局長原勝己氏外二十三名の爲めに、水野主事は「天體の大きさ、距離」について特別講演を試みそれから天文臺を案内した午後七時から通俗講演會が開かれ、水野主事は「十二月の天」なる題下一場の講演を試み、その後若干の天體を觀測した。
4. 十二月中の參觀人。  
七日、大阪市第二西野田小學校 正田正三  
八日、岡山歩兵第十聯隊大尉山本道三 外八名。  
十七日、御津郡教員團片山基太郎外十三名。  
二十四日、都窪郡豐洲小學校 秋田秀一 外八十三名。 水野 主事

### 會 員 消 息

理學士 竹田新一郎氏は去る二月より京大理學部宇宙物理學教室の講師とされた。